

平成20年度

通常総会議案

期 日 平成20年6月23日
場 所 熊本県畜産会館
(熊本市桜木6丁目3-54)

社団法人 日本あか牛登録協会

平成20年度通常総会次第

期 日：平成20年6月23日

場 所：熊本県畜産会館

1．開 会

2．会長挨拶

3．来賓挨拶

4．議長選出

5．議事録署名人選出及び書記指名

6．議案審議（提出議案2件）

第1号議案 平成19年度事業報告書、収支計算書、正味財産増減
計算書、貸借対照表及び財産目録の承認の件

第2号議案 平成20年度事業計画書（案）及び収支予算書（案）
の承認の件

7．閉 会

議 案

第1号議案 平成19年度事業報告書、収支計算書、正味財産増減
計算書、貸借対照表及び財産目録の承認の件

第2号議案 平成20年度事業計画書(案)及び収支予算書(案)
の承認の件

上記の通り提案します。

平成20年 6月23日

社団法人 日本あか牛登録協会
会長理事 滝本 勇治

第1号議案

平成19年度事業報告書

．庶務関係

1．定期監査

平成19年6月12日、本会事務所において、吉田、大野監事出席のもとに定期監査が実施された。

2．理事会

平成19年6月22日、熊本県畜産会館において理事会を開催し、次の議案について審議した。

(1) 平成19年度通常総会提出議案3件

第1号議案 平成18年度事業報告書、収支計算書、正味財産増減計算書、貸借対照表及び財産目録の承認の件

第2号議案 平成19年度事業計画書（案）及び収支予算書（案）の承認の件

第3号議案 役員改選の件

3．通常総会

平成19年6月22日、熊本県畜産会館において平成19年度通常総会を開催し、下記の議案を審議、いずれも原案通り承認可決した。

第1号議案 平成18年度事業報告書、収支計算書、正味財産増減計算書、貸借対照表及び財産目録の承認の件

第2号議案 平成19年度事業計画書（案）及び収支予算書（案）の承認の件

第3号議案 役員改選の件

4．役員改選結果

会 長 滝本 勇治、副会長 穴見 盛雄、常務理事 中川 利美

理 事 安東 正史、加藤 義康、吉野 栄二

那須 真理子、大野 秀人、塚元 秀典、高野 敏則

監 事 吉田 敦、井上 司

事業成績

1. 会員並びに登録・登記の状況

本年度の会員数は、対前年比6.5%減の1,820名であった。

育種高等登録、高等登録は増加し、産肉登録、繁殖登録ならびに子牛登記は減少した。

各道県別の会員数並びに頭数は表1の通りである。

表1 道県支部別会員数・登録登記頭数

区分 支部別	会員数	育種高 等登録	高 等 登 録	産 肉 登 録	繁 殖 登 録	子 牛 登 記	登録登記 合 計
北海道	95 (105)				112 (97)	577 (624)	689 (721)
岩 手	17 (20)				9 (8)	57 (81)	66 (89)
秋 田	62 (65)				4 (10)	60 (82)	64 (92)
埼 玉	1 (1)				12 (5)	6 (2)	18 (7)
静 岡	1 (2)				1 (1)	1 (2)	2 (3)
長 崎	18 (28)				6 (3)	63 (60)	69 (63)
対 馬	55 (61)			0 (1)	26 (45)	141 (166)	167 (212)
熊 本	1571 (1668)	38 (15)	39 (16)	11 (12)	751 (806)	6,780 (7,121)	7,619 (7,970)
計	1820 (1946)	38 (15)	39 (16)	11 (13)	921 (975)	7,685 (8,138)	8,694 (9,157)
前年比	93.5	253.3	243.8	84.6	94.5	94.4	94.9

注：()内数字は前年度実績、 は支部未設置県を示す。

2. 育種改良事業

- (1) 国、県が推進している肉用牛広域後代検定推進事業に積極的に協力し、候補種雄牛の能力調査、基礎雌牛の選定など優良種畜の選抜、ならびに不良形質の除去対策などに取り組んだ。
- (2) あか牛集団の血統の偏りを是正するためのくまもとあか牛振興対策事業に協力し、計画交配の手法を検討するとともに稀少系統の保存に努めた。
- (3) 現場検定及び一般の肥育成績を調査し、得られたデータについて分析、育種改良の基礎資料とした。
- (4) 超音波測定器による肉質形質の調査及び育種改良への応用
候補種雄牛、繁殖基礎雌牛の選抜利用法の確立のために超音波測定による肉質の診断を実施した。

3. 普及指導事業

- (1) 各県支部が主催した研究会、研修会等に担当者を派遣し指導に努めた。
- (2) 北海道、熊本県において組織された「あか牛協議会」の運営に協力し担当者を派遣した。

4. 組織対策事業

支部の活動及び会員の各種会合等に対して協力した。

5. 刊行事業

機関誌『あか牛』を刊行した。

6. 表彰事業

各種共進会に対し、副賞を贈呈して上位入賞牛を表彰した。

7. 受託事業

(1) 計画交配推進調査事業（熊本県委託）

肉用牛広域後代検定推進事業の補完的な事業として、基礎雌牛の選抜、超音波測定、血統分析、繁殖成績等の特性や能力ならびに異常形質の発生状況について調査し、計画交配の推進に努めた。

(2) 家畜改良体制整備事業（家畜改良事業団委託）

登録証明書の発行をコンピュータで処理する、改良体制整備事業を実施した。
また、個体識別システムを利用した登録事業について検討した。

(3) 肉用牛生産性向上対策事業 (全国肉用牛振興基金協会委託)

効率的な肉用牛生産技術を普及するために指導者の研修会を開催した。

日時：平成 2 0 年 3 月 1 2 日

場所：熊本県農業研究センター

講 演 あか牛の育種価評価について

井上 慶一係長 (独立行政法人家畜改良センター)

産肉能力検定 (現場検定) 終了牛の枝肉成績検討

(4) 家畜生産技術有効活用対策事業 (中央畜産会委託)

あか牛の改良状況を検討するため、繁殖牛・肥育牛の定点調査を実施した。

計算書類に対する注記

1. 重要な会計方針

(1) 固定資産の減価償却について

定率法による減価償却を実施している。

(2) 資金の範囲について

資金の範囲には、現金、預金、未収金、仮払金、立替金、未払金、預り金、仮受金を含めることとしている。なお、前期末及び当期末残高は、下記2に記載する。

2. 次期繰越収支差額の内容は、次のとおりである。

(単位：円)

科目	前期末残高	当期末残高
預 金	1,753,737	1,386,953
未収金	6,273,025	15,677,690
仮払金	117,000	72,100
合 計	8,143,762	17,136,743
未払金	5,989,935	14,105,551
預り金	265,000	74,000
仮受金	45,596	61,140
合 計	6,300,531	14,240,691
次期繰越収支差額	1,843,231	2,896,052

社 員 名 簿

社団法人 日本あか牛登録協会
(平成20年3月31日現在)

道県別	社 員 氏 名	社員数	会員数
熊本県	上野 勝 ほか 83	84名	1,571名
北海道	田島真多秀 ほか 5	6	95
秋田県	岩船 正記 ほか 3	4	62
対 馬	堀 正一 ほか 3	4	55
長崎県	吉田 敦	1	18
岩手県	佐々木良喜	1	17
静岡県		0	1
埼玉県		0	1
合 計		100	1,820

第2号議案

平成20年度事業計画書

1. 会員数

本年度は、下記の会員確保を目標として諸事業を推進する。

正会員	1,900名
賛助会員	50名

2. 登録事業

前年度において登録頭数が減少傾向にあるので、本年度は下記の頭数を目標とし、さらに登録事業の重要性を強調し、資源の維持拡大に努めたい。そのために、登録奨励金制度を継続し、優良牛の多頭化を推進する。

目標頭数

育種高等登録	40頭	(38頭)
高等登録	40頭	(39頭)
産肉登録	20頭	(11頭)
繁殖登録	950頭	(921頭)
子牛登記	8,000頭	(7,685頭)

注：カッコ内は前年度の実績

3. 育種改良事業

- (1) 肉用牛広域後代検定推進事業等の種畜選抜事業に対しては、関係機関と連携をとりながら、優良種畜の選抜及び不良形質の淘汰など育種改良事業を推進する。
- (2) 産肉能力検定事業等の推進、現場情報による産肉性の調査、デ-タ分析を通して優良系統を選抜するとともに生産農家への情報の提供に努める。
- (3) 受精卵移植技術、体外受精技術等の新技術に対する取り組みについても継続実施する。
- (4) 超音波検査による優良肉質素材牛の選抜などは継続実施する。
- (5) あか牛集団の血統の偏りを是正するための、計画交配の手法を検討するとともに稀少系統の保存に努める。
- (6) 産肉能力検定の方法ならびに改良目標について検討する。

4．普及指導・組織対策事業

- (1) あか牛振興対策協議会への協力
- (2) 種雄牛造成並びに会員相互の連携を深めるため、改良組合の組織化を図る。

5．刊行事業

機関誌「あか牛」とその他の改良資料の発行。

6．表彰事業

- (1) 共進会、共励会での優秀牛の表彰
- (2) 特別功労牛の表彰

7．受託事業

- (1) 計画交配推進調査事業（熊本県）
- (2) 肉用牛生産性向上対策事業（全国肉用牛振興基金協会）
- (3) 家畜生産技術有効活用対策事業（中央畜産会）